

令和7年9月19日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称…老人デイサービス きらめき

サービス種類…地域密着型通所事業、介護予防・日常生活支援総合事業

会議開催日…令和7年9月18日（木）15：00～16：00

開催場所…詔光の里 応接室

出席者

事業所	2人	利用者	0人
利用者家族	0人	地域代表者（民生委員）	2人
松江市職員（介護保険課）	1人	包括支援センター	0人
知見を有する者	(1) 人	その他 (他事業所ケアマネ)	0人

【議事】

令和7年4月から令和7年8月31日までの報告

【議題】

活動状況報告

1. 事業所紹介
2. 利用実績
3. 活動内容
4. 運営・地域についての意見交換

【意見交換】

●事業所の問題点（事業所からの報告内容より）

・人材確保、ケアの質（認知症・介護力）

有識者、地域代表）どこの事業所も人材確保については大きな問題。以前は専門学校から受け入れを行っていた。近隣の県にもネットワークを広げ人材確保に努めたが現在は難しい。又当事業所（有識者）においても人材確保、教育両方の面で苦勞している。働く職員の目標や介護知識がある一定で止まってしまうことにより、自分の介護は正しい、出来る人と勘違いし我流で介護をしてしまう。この事がチームに影響を及ぼすことが有る。又、我流（知識不足）により幅が狭くなり、臨機応変の介護できなく壁を感じ退職に至ることも有り。よって、法人や施設が職員に対する教育のプロセスを示す事が大事である。学ぶ大事さ・資格の重要性・意識改革に取り組むことで自己研磨が積めるように会社として示し支援も必要となるのでは。又、資格を取ることに付いての評価も同時に行う事が必要。今後は人材確保を基より人材教育も同時に行うことは必須であると考え。

事業所) 研修等に行かせ学ぶ機会を作りたいが、人員不足もあり出来ていない状況である。昔は自分で勉強することによりスキルアップをしていたが、昨今は会社として学ぶ機会の確保、後押しをしなければいけない。又、デイサービスは重度の方と接する機会が少なく実践型でのスキルアップには限界がある。今後どうスキルを上げるかが問題として考える。又、認知症基本法内の新しい認知症感について職員一同が意識を持って取り組み始めるように行いたい。

●事業所について意見

地域の方) 長年当事業にボランティアとしてかかわっている。利用者の重度化が見られるのは仕方ない。しかし、以前の様に盛り上がりが少ないと感じる(会話量減った)。利用者は商品かもしれないが、利用されている高齢者は「人間であり人」である。感情の生き物で「感情」と「感情」の仕事なので、その人に合わせた『会話』が足りていないように感じる。教科書通りの対応、介護側の思い通りに行かないのは分かるがもう一度見直されては。

有識者・地域の方) 会話の方法でも大きな声だけでなく、その方の心情や疾病(認知症)等を考えた、個々にあった会話術も必要でないか

事業所) 意見をいただきはっとした。支援が現在作業になっているかもしれない。会話術・相手の言葉を引き出す・利用者間での会話の受け渡しなどいろいろな場面において職員のコミュニケーション能力や技法の向上を図ることが必要。『作業』なく『仕事』として取り組めるように大事な意見として職員間で共有をしたい。又、2025問題に突入し団塊の世代のご利用が始まっている。現在は個別対応が求められる時代であり法人、施設として時代に沿った支援ができると良いと考える。

●事業所(法人) に対して

集合住宅がある地域あり、別(大きな)集合住宅から生活環境の変化(独居など)などの理由により、この地区の集合住宅に転居され環境が新たになる方もいる。いままで社会交流が図れていたが引っ越しと共に交流が途切れ、引きこもりになり弱気な言葉が聞かれる方もいる。引きこもることに事によりマイナス面も多く、事業所(社会福祉法人)として、閉じこもり予防の取り組みについてご教示、力添え頂けると喜ぶ。

●行政

市内の通所事業所においても休所や閉鎖など報告を受けている。通所事業は在宅を送るにあたって重要な核となる事業体である。通所を行う上でも『大事な場』を理解し展開して欲しい。又、今後事業所開所の問い合わせなどに地域・介護などの思いを聞いてみたいと感じた。

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
☐ 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○